

8/12 (木)

2010年(平成22年)

新潟日報

夕刊
発行所 新潟日報社
本社 〒950-1189 新潟市西区善久772-2

題字 會津 八一

第24315号

聞き慣れない「アダプティブ」という言葉。日本では、障がいのある方を「障害者」「障害を持つ方」などと表現します。

英語だと「ハンディキャップ」「ディスプレイ」などです。「アダプティブ」という言葉は近年、欧米において障がいのある方を指すのに使用されるようになってきた言葉で、私たちのプログラムでも使う言葉です。



晴 | 雨 | 計

「障害者」という言葉は一般的ですが、障がいのある方に「害があるのでしょうか?」「障害を持つ方」という表現だと、好きで持っている人がいるでしょうか? 変な感じですね。こんな背景から「障がい」とひ

らがなを使うようになってきました。

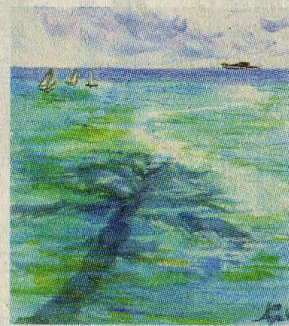
さて「ハンディキャップ」の語源は、「帽子を手を持って物ごいをする人」といわれます。「ディスプレイ」というのは、「可能」のエイブルに対し、「不可能」という意味。どちらもすごく失礼!です。

「アダプティブ」という言葉は「アダプター」から生まれてきました。直訳すると「適応」です。

アダプティブ

身近なものでは、眼鏡もまさにアダプター。運転免許の条件に、眼鏡が記載されている人も少なくないですね。眼鏡は視力の悪い人が良い人のレベルに適應させるアダプターです。

障がいのある方は社会に適應するため、健常者より多くのアダプターが必要な場合があります。それは移動を補う車いすだったり、視覚に障がいのある方への信号機の音声案内だったり。時には「へ



ルパー」という人だったりもします。

障がいのある方々と向き合うとき、コンタクトレンズを使うスタッフと車いすのお客さまとの間に、「健常者と障がい者」という区別は必要ありません。私たちは誰でも、アダプターで生活を便利に快適にしています。「必要とするアダプターが違っただけ」と考えると、世の中が違っただけ見えてきます。